OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	中国における科学技術者のキャリアと成果に関する実証研究
Author(s)	李, 林暉
Citation	大阪大学, 2018, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/70660
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

様式３

論　文　内　容　の　要　旨

氏　名　（　李　林暉　）	
論文題名	中国における科学技術者のキャリアと成果に関する実証研究

論文内容の要旨

本研究は、頭脳循環という視点から中国の帰国招致政策、特に、帰国人材の持つ知識や技能面での優位性が生み出すと思われる成果と帰国後の転職、すなわち、国内での移動に注目し、実態の把握と彼らが母国への貢献を生み出す過程を統計的に分析した。

第1章においては、彼らによって技術が移転され技術発展がなされていることを指摘する研究が紹介された。一方、そのような貢献を個人のレベルで実証的に捉えた研究が十分でないことも指摘し、本研究のように、帰国した科学技術者がもたらす成果を彼らに関する個票データに基づき測定するという試みがこの空白を埋めるという価値のある作業であることを提案した。

第2章以降は、より具体的な問題に焦点を当て分析を進めた。まず、第2章では、科学技術者の研究成果の有益な指標である学術論文と特許取得が賃金に正の影響を与えるという仮説を検証した。2013年に上海の科学技術者から回収した個票データを用いて分析を行った結果、学術論文数と特許取得は彼らの賃金に正の影響を与えることが観察された。すなわち、学術論文数が多ければ多いほど、あるいは特許を取得していれば、科学技術者は高い賃金を得ている。一方、科学技術者は留学経験を持っているからといって、研究成果がなければ、必ずしも高い賃金が得られるとは限らないという結果も示された。

第3章では、留学経験と研究成果の関係についてさらに分析を進め、科学技術者の海外での留学経験が研究成果に正の影響を与えるかどうかを検証した。分析は、海外での留学経験は論文数に大きな影響を与えているだけでなく、研究活動の継続に強く影響をし、それを通じて特許数にも影響をしていることを明らかにした。留学は新たな専攻知識や分析視点・方法を獲得させ、それを研究活動に活かす可能性を高めることで、より多くの研究成果をもたらすだけでなく、結果として賃金も高めていることが示された。

第4章では、主に帰国者の転職に焦点を当て、転職が、所得や技術革新にもたらす貢献、また帰国者の創業意欲や彼らが獲得する職位にどのような影響を与えるかを分析した。結果、転職は所得と技術革新に正の影響を与えるとは言えないが、創業意欲には正の影響を与えることが検証された。さらに、帰国後の転職経験が上級管理者になる可能性を高めることも明らかになった。

様式 7

論文審査の結果の要旨及び担当者

氏　名　（　李　林暉　）		
	（職）	氏　名
論文審査担当者	主 査　教授 副 査　教授 副 査　准教授	松繁　寿和 小原　美紀 松林　哲也

論文審査の結果の要旨

本研究は、中国の海外留学者を帰国させるようとする政策、特に、彼らの持つ知識や技能面での優位性が生み出すと思われる研究成果と、彼らの帰国後の転職を通じてのキャリア形成に注目し、彼らが母国にもたらす貢献を統計的に分析したものである。

第1章においては、様々な国において海外から帰国した人材によって技術が移転され技術発展がなされていることを指摘する先行研究を紹介し、それらの中国における含意を検討している。一方、帰国した科学技術者がもたらす成果を個々人の情報を入手し実証的、特に統計的に捉えた研究が十分でないことも指摘し、本研究のように、彼らに関する個票データに基づき測定するという試みがこの空白を埋める学術的に価値のある作業であることを明らかにしている。

第2章以降は、より具体的な課題に焦点を当て実証分析を進めている。まず、第2章では、科学技術者の研究成果の有益な指標である学術論文と特許取得が賃金に正の影響を与えるという仮説を検証している。上海の科学技術者から回収した個票データを用いて分析を行い、学術論文数と特許取得は彼らの賃金に正の影響を与えることを明らかにしている。すなわち、中国の研究者たちは特許を取得していれば、あるいは、学術論文に関してはその数が多ければ多いほど、高い賃金を得ていることを統計的に裏付けたことになる。

第3章では、留学経験と研究成果の関係についてさらに分析を進め、科学技術者の海外での留学経験が研究成果に正の影響を与えるかどうかを検証している。分析は、海外での留学経験は論文数に大きな影響を与えているだけでなく、研究活動を継続できる環境を獲得する面で有利にはたらき、その結果、特許数にも影響をしていることを明らかにしている。留学は新たな専攻知識や分析視点・方法を獲得させ、それを研究活動に活かす可能性を高めることで、より多くの研究成果をもたらすだけでなく、結果として賃金も高めていることが示された。

第4章では、主に帰国者の転職に焦点を当て分析を進めている。転職が、所得や技術革新にもたらす貢献とはどのようなものか、また帰国者の創業意欲や彼らが獲得する職位にどのような影響を与えるかを検証している。分析結果は、転職は所得と技術革新に正の影響を与えるとは言えないが、創業意欲には正の影響を与えることを示している。さらに、帰国後の転職経験が上級管理者になる可能性を高め、キャリア形成に有利に働くことも明らかしている。

以上のように本研究は、これまでの研究にはない情報を含んだ希少かつ貴重なデータを使用しているという利点に留まらず、中国において海外からの帰国人材、特に理系人材が技術移転においてはたす役割と、留学経験が彼らのキャリア与える影響を新たな視点を持ち込み、いくつかの新たな発見を行った点で評価でき、博士号を与えるに十分な価値のある研究であると判断できる。